



グローブダービーにおける 子供ハーネスレースの様子



場内にはインタードミニオンの歴史を
伝える展示も

世界旅打ち気分

●第23回・グロースターパークとグローブダービー

須田鷹雄

写真のカラー版は
<https://www.instagram.com/sudatakaoshoten/>の
#グリーンファーム会報#2020年3月号
でご覧いただけます

<https://www.instagram.com/sudatakaoshoten/>

競馬場ならではと言えよう。

この競馬場でおすすめしたいもうひとつのおすすめポイントが、装鞍所。オーストラリアはどの競馬場でも装鞍所におけるファンと馬の距離が近いが、こゝは大きなプレペレードリングがあり、臨戦態勢の整った出走馬の姿をじっくり見ることができ。すぐ脇にはバードケージカフェというカフェもあり、場内が混雑していた時代にはそちらに腰を据えて競馬を楽しんでいたファンも多かつたものと思われる。

トでバタついてそのまま走りこむ。うような馬もいるが、能力差のあ

9 . . では主に東海岸で行われる。2か月の「トロント・オーストラリアイークレース」は、10 . . 0でペース競走を一段見下して、11 . . 1でペースが主流となつている。「トロント・オーストラリアイーク」は、10 . . 0でトロントで開催される。ペース競走を一段見下して、11 . . 1でペースが主流となつている。ペース競走を一段見下して、11 . . 1でペースが主流となつている。

今回はオーストラリアの競馬場から、ハーネス専門の競馬場を2場御紹介しよう。

る馬どうしでもレースを組める利点がある。

ロジティングチャンピオンシップも行われてゐる。このインターデミオノチャレンジングはオーストラ

馬が普通の「ト」、「タ」だと子供が持つていかれてしまうため、二輪馬車を曳くのは「ポー」。その「ポー」はドライバーを務める子供(とその親もしくは乗馬クラブ等の管理者)が連れてくることになつてゐる。

「ネスレース」を見るためである。番組をご覧になった方はお分かりだろうが、正規レースの合間に子供騎手（ハーネスの場合はジョッキーではなくドライバーという）によるレースが行われるのだ。

ただ「南オーストラリア州のメイノ場」といつても、競馬場そのものは正直いつて廃れている。かつてはきらびやかに来場者を迎えていたであろう入場門の電飾は「LEDではなく昔ながらの電球で、しかもいまはその門自体が閉められている。場内にはそれなりに人がいるものの、熱心な競馬ファン」というよりは地元の集会所という雰囲気で、高齢者の比率も高い。馬具・馬用薬品の売店があつたりパレードリングの大きさなどにはさすが主張場と思われるものがあるが、斜陽感を隠せない競馬場ではある。ではそんな競馬場になぜ私は口

上の歴史を持つ」となる。その1つの由来は「セイタードリームホーリー

部のイーストベースという地区にある。そこから少し北東にいくとベルモントというサラブレッド平地競走の競馬場があり、さらに東に行くとアスコットという競馬場もある。西オーストラリア州は都市と都市の距離がかなりあるので、日本人が旅打ちに行く場合、よほどの好事家でない限りこの3場が対象となるだろう。

このグロースターパークは1936年の開場というから、もう80年以

る馬どうしでもレースを組める利点がある。

そんなオーストラリアのハーネス場から、今回は2場を御紹介しよう。いずれも私がグリーンチャンネルのオーストラリア横断企画で口ヶに行つた競馬場だ。

ひとつめは、グロースターパーク競馬場。西オーストラリア州のパースにある。ペースは日本人が引退後に移住することも多い土地で、全日空の直行便も飛ぶようになつたのでぐつと行きやすくなつた。郊外にはビーチもあり、なかなか

ぐ各州で行われており、年末には、ヴィクトリア州で決勝戦のようなレースがあるとの話だった。実際にその後、クイーンズランド州のアルビオンパークでも子供ハーネスを見たので間違いなさそうだ。

ライバーを養成するというか子供に関心を持つもらうために昔から行われているそうで、実際にこの競技からプロドライバーになった人もいるそうだ。

馬術で言うと「ジンの自馬戦だ。装鞍所は正規レースのものとは別に用意されており、そこで子供たちが馬の手入れをしたり馬装をしている様子はなかなか可愛らしい。ボーネーは能力差が大きいので、レースは距離ハンデで行われる。また子供、だけだと頭数が揃わないことがあります、おそらくは本職であろう大人ドライバーが混じっていることもある。ともあれ普通のハーネスレースとはまた違つちよ」まかどしだ動きのレースが行われ、「これは」れで白熱するから面白い。

手、さらに1～3着の結果が掲げ
—ソノノアインアル出走馬と委嘱

自体がさほど盛り上がりでいるとは言えないハーネスレースの世界だが、かつてはそのようなシリーズを行うほど盛り上がりで、その第1回が行われたのがグロースターパークだったのだ。最近では休止前の2012年がここで行われている。グロースターパークは入場門の構えからして時代がかっているが、インターデミニオンの歴史を伝えるものは場内にある。正門とは別に、1933年と2012年のインターデミニオンのようなものがあるのだが、その裏側（競馬場の場内側）に、